

みんなの 各務原

Kakamigahara city Master Plan

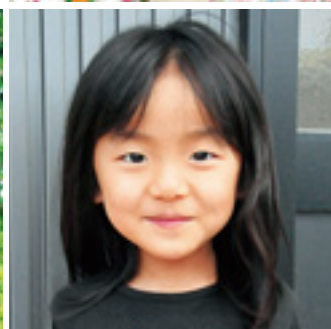
KAKAMIGAHARA

各務原市総合計画

2015 > 2024



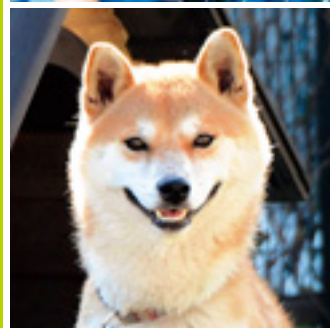
誇り
Pride



やさしさ
Tenderness



活力
Vitality



笑顔があふれる元気なまち
くしあわせ実感 かかみがはらく



各務原市の未来を描こう！

総合計画は、各務原市をどのような「まち」にしていくのか、そのためにどんなことを実施していくのかを総合的、体系的にまとめたまちづくりの羅針盤です。

人口減少や高齢化の急速な進展、国と地方、県と市町村の役割分担の抜本的な見直しなど、市民生活や自治体を取り巻く状況は変化を続けています。また、社会の成熟にあわせて、人々のライフスタイルや価値観が多様化している一方で、大災害等をきっかけに、家族や友人など人との絆・つながりといった、かつてのまちづくりにおける重要な要素が再認識されています。

こうした社会経済情勢の変化にともなう新しい行政需要の高まりや、時代、社会の潮流を的確にとらえ、各務原市がめざす姿と進むべき方向性を明らかにする必要があります。

このような状況において、これからの各務原市のまちづくりには、行政主体ではなく、市民や様々な団体などと協力し、みんなの力でつくりあげていくことが大切です。みなさんの情熱、アイデアをまちづくりに反映させていく！ 総合計画にはそんな大切な役割があります。



みんなで目指そう！将来のまちの姿！

各務原市のまちづくりのテーマは「幸せ」。

総合計画では、将来都市像を『笑顔があふれる元気なまち ～しあわせ実感 かかみがはら～』と掲げています。

市民のみなさんや様々な団体などと意見交換することで夢や目的を共有し、すべての人が、生きがいを持って、いきいきと輝き、笑顔があふれる元気なまちづくりを目指します。



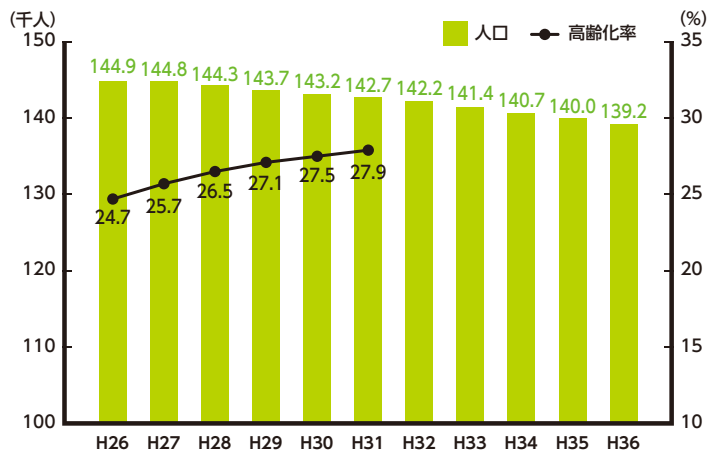
今、各務原市にはこんな課題があります



平成22年国勢調査における各務原市の人口は、145,604人です。10年前と比較すると3,844人増加していますが、0～14歳と15～64歳の人口はともに減少し、65歳以上の人口が増加しています。

今後は、人口は減少し、平成26年に24.7%であった高齢化率（人口に占める65歳以上人口の割合）は、平成31年には27.9%まで上昇すると見込まれます。

■ 各務原市の将来人口推計・高齢化率



人口減少、少子高齢化が進展すると、社会保障費の増加や労働力人口の減少による経済の縮小、地域コミュニティの担い手不足など、社会生活における様々な影響が懸念されます。

まちづくりの達成度を測ります



まちづくりの達成度を測るものさしとして、市民のみなさんの幸福度を測る「しあわせ指標」と、まちづくりの基礎的な条件として重要な「定住人口」の2つを設定しています。

ものさし1

しあわせ指標

まちの発展は、そこに暮らす人々の幸せがあつてこそ。市民のみなさんのアイデアや提案をまちづくりに活用し、将来都市像『笑顔があふれる元気なまち ～しあわせ実感 かかみがはら～』の実現に取り組みます。

現在値

平均点

6.63/10

平成25年度 市民意識調査

目標値

平成36年

UP↑

ものさし2

定住人口

子育て支援の充実や産業の活性化など、まちの魅力の向上を図るとともに、そうした取り組みを効果的に発信することにより、移住・定住の促進に取り組みます。

目標値

平成36年

145,000人

1

思いやりと ふれあいのある 協働のまち 〈市民協働〉



地

域が抱える様々な課題に対応するには、地域で暮らし、活動している多様な市民との連携が重要です。

地域コミュニティにおいて中心的な役割を果たす自治会活動を積極的に支援するとともに、NPO、ボランティアなど様々な団体との連携を図り、市民と行政の協働によるまちづくりを進めます。

また、すべての市民が、自らの生活の中で培った経験や能力を発揮し、互いに支えあいながら一人ひとりが主役となり、いきいきと活躍できるよう支援を行います。



1 市民協働

- 1 対話によるまちづくり
- 2 まちづくりの担い手の育成
- 3 協働によるまちづくり

2 自治会・広報活動

- 1 コミュニティ活動への支援
- 2 地域活動への参加促進
- 3 広報活動の充実

3 人権・平和

- 1 人権・平和の尊重
- 2 男女共同参画社会の実現
- 3 多文化共生の推進



まちづくり
ミーティング



平和パネル展

コラム

基本計画は、「教育・文化・スポーツ」、「産業」などといった9つの基本目標でできています。大切な分野が並んでいますが、そんな中、一番最初に出てくる「市民協働」。実はこれ、たまたまではないんです。

今回の総合計画のテーマは「幸せ」。この主観的な感覚である幸せをアップさせるにはどうしたらいいか？わたしたちの答えは、「市民を出発点とするまちづくり」です。

「協働」といっても形はいろいろ。実際に何かの活動をするのもそうですし、皆さんが普段の生活で感じていることをお伝えいただく、それもまちづくりへの参加のひとつです。

現在、わたしたちは、市長と直接語り合う「まちづくりミーティング」や市長への直行便「あさけんポスト」など、「対話」を軸に皆さんのいろいろな声をお伺いしています。いただいた提案、アイデアは、効果、経費などによって検討し、必要と判断した案件はひとつひとつ実現していきます。

この冊子をパラパラめくっていったその先には、なんと「提案書」が♪
さあ、いっしょに「幸せを実感できるまちづくり」を進めましょう。



2 心豊かで文化を育む 人づくりのまち

〈教育・文化・スポーツ〉



子どもたちが心豊かに力強く生き抜いていけるよう、特色ある学校づくりを進めるとともに、家庭・地域・学校がそれぞれの役割を果たしながら連携し、子どもたちの健全な育成に努めます。

また、地域固有の伝統・文化を未来へ継承するとともに、美術・音楽など自主的な文化活動を支援し、生涯を通じて学ぶことができる環境を提供します。

さらに、健康の保持・増進を図るための生涯スポーツの普及から、スポーツ競技力の向上に至るまで、すべての市民が日常的にスポーツに取り組み、心身ともに健康に暮らせるまちづくりに努めます。



1 学校教育

- 1 学校教育の充実
- 2 地域資源の活用
- 3 学校保健の充実と食育の推進
- 4 学校施設・設備の充実



ロンドンオリンピック
男女ホッケー予選大会

2 青少年教育

- 1 地域教育力の向上
- 2 情報モラルの向上
- 3 家庭教育の充実
- 4 体験学習の充実

3 学びの機会

- 1 生涯学習の充実
- 2 社会教育環境の整備
- 3 図書館サービスの充実



通学路
見まもり隊

4 芸術・文化・歴史

- 1 芸術・文化活動の充実
- 2 歴史・文化遺産の保護と利活用

5 スポーツ

- 1 スポーツ機会の創出
- 2 地域スポーツ活動への支援
- 3 スポーツ施設の充実
- 4 ホッケーの推進
- 5 (仮称) スポーツ推進計画の策定



コラム

近代オリンピックの第一歩となる記念すべき大会は、古代オリンピックの故郷・ギリシャのアテネで1896年に開催されました。

ここで豆知識をひとつ。「世界各国に衛星を使って生中継でテレビ放送されるようになったのは、東京オリンピックが最初である。」…ほほう。衛星を使った生中継のテレビ放送って、実は1964年が最初なんです！そして、2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が再び決定した今、日本中でスポーツに対する関心がより一層高まっています。

スポーツといえば、我が各務原市ではホッケーが盛んです。オリンピック選手も多く輩出しており、ホッケーの推進は、わたしたちに夢と希望を与えてくれます。実は、わたしもロンドンオリンピック予選までは、ホッケーを実際に見たことがありませんでした。感想は、見てみてびっくり！エキサイティング！

あなたもホッケーを見に来てみませんか？百聞は一見にしかず！きっと、体を動かしたくなる光景がありますよ♪

3

豊かな自然と 調和する 共生のまち 〈環境〉



環

境問題は中長期的な課題であることから、自然環境の保全や循環型社会の構築は、現在、生活を営む私たちだけではなく、次代を担う子どもたちにとっても重要です。

各務原市の恵まれた自然環境を後世に伝えるため、森林環境・水環境や多様な生物の保全に努め、地域の生態系を保持した人と自然が共生できるまちを目指します。

また、地球温暖化をはじめとする環境問題は、この地球に住むすべての人に関わる問題です。ごみの減量化・再資源化の推進、省資源・省エネルギーを推進することにより、循環型社会の推進と環境負荷の低い低炭素社会の実現に努めます。



1

環境保護・ 保全活動

- 1 環境保護・保全活動の推進
- 2 環境教育の充実

2

循環型社会

- 1 循環型社会の形成
- 2 適正な廃棄物の処理

親子環境教室



3

生活環境

- 1 地球温暖化防止対策の推進
- 2 地下水の保全・管理
- 3 生活排水対策の推進
- 4 特定外来生物の駆除と生物多様性の保全

北清掃センター・
リサイクル施設



コラム

各務原市では、定期的に「ごみの組成調査」を行っています。北清掃センターの燃やすごみの貯留槽（ごみピット）からごみを抽出し、ごみの種類ごとの構成割合を調査しています。その結果は、「紙・布類」が44%、プラスチック類が30%、生ごみが12%となっています（H25年度年間平均値）。「紙・布類」の中には、リサイクルできる菓子箱などの「雑紙」が含まれています。「雑紙」の分別を徹底することで、紙類の再資源化が推進され、燃やすごみを減らすことができます。

また、野菜くずには80%程度の水分が含まれており、生ごみの成分として多くの割合を占めています。生ごみの水切りをしっかり行うだけでも大きな減量効果が期待でき、悪臭の軽減にもつながります。水切りを行えばその分ごみの重量は減り、処理費用も安くなります。

より一層のごみ減量のために…

● 雑紙の分別に取り組もう

● 水分をしぼって生ごみを減らそう

4 元気があふれる 健やかなまち

〈保健・医療〉



心

豊かで充実した生活を送るためには、心身ともに健康であることが必要です。

市民一人ひとりが自発的・自立的に、自分にあわせた健康づくりに取り組むことで健康寿命を延伸させ、生涯にわたって健やかで心豊かに生活することができる体制づくりに努めます。

また、地域医療体制や救急医療体制の充実を図り、症状や緊急性に応じた最適な医療を受けられるように努めます。



1 健康づくり

- 1 健康寿命の延伸に関する啓発
- 2 健康づくり活動への支援
- 3 食を通じた健康づくりの推進
- 4 こころの健康の保持・増進



幼児歯科健診

2 保健・予防

- 1 生活習慣病等予防の推進
- 2 歯の健康の保持・増進
- 3 母子保健の充実
- 4 感染症予防対策の推進
- 5 健康づくりを支援する環境の整備



健康相談

3 地域医療

- 1 かかりつけ医制度の推進
- 2 救急医療体制の充実
- 3 地域医療体制の整備

コラム

知っていますか？メタボリックシンドロームが脳卒中や心筋梗塞を引き起こすことを。

内臓に蓄積された脂肪が原因となって、高血圧症、糖尿病などを引き起こし、それらが重なると動脈硬化が急速に進み脳卒中や心筋梗塞になる割合が高くなるといわれています。平成24年度に特定健康診査を受けた市民の方のうち、実に男性は4人に1人、女性は11人に1人の割合でメタボリックシンドロームの該当者でした。

糖尿病、脳卒中などの生活習慣病を予防するには、日常生活に「適度な運動」、「規則正しい食生活」、「十分な休養」を取り入れることが重要です。

各務原市では、若い年代の方に自分の健康に関心を持ってもらうために、職場などで健診を受ける機会の無い主婦や自営業などの方を対象に自己負担額500円で受けられる「ヤング健診」を実施しています。

定期的な健診で自分の健康状態をチェックする習慣を身につけるとともに、日頃から自分や家族の健康相談などができる「かかりつけ医」を持つことも、健康維持のための有効な手段です。

いつまでも健康で、自分らしく楽しい生活を送るため、明日からといわず、今日から生活習慣の改善に取り組んでみませんか。



5

支えあいと 笑顔あふれる 思いやりのまち

〈福祉・社会保障〉



誰もが健やかに暮らすためには、共助としての地域におけるお互いの助けあいと、公助としての社会保障・福祉施策がバランスよく機能することが重要です。

そのため、それぞれの地域においてこれまで進められてきたコミュニティ活動に対し積極的な支援を行い、より一層地域での支えあい助けあいの活性化を図ります。

子ども、高齢者など年齢や障がいの有無などにかかわらず、誰もが社会の重要な一員としてお互いに認めあい、安心して暮らせるよう、適正な社会保障の給付と、必要な人に適切な福祉サービスを提供します。



1 地域福祉

- 1 地域福祉の担い手育成
- 2 ボランティアの連携強化
- 3 福祉の拠点づくりの推進

2 社会保障

- 1 国民健康保険制度、後期高齢者医療保険制度の適正な運用
- 2 介護保険制度の適正な運用
- 3 生活困窮者自立支援施策の充実
- 4 国民年金制度に関する啓発

3 高齢者福祉

- 1 地域包括ケア体制の構築
- 2 高齢者の自立支援・生活支援
- 3 認知症対策の推進
- 4 高齢者の生きがいづくりの推進
- 5 高齢者の社会参加促進

4 障がい児者福祉

- 1 相談体制、サービス情報提供の充実
- 2 障がい児者自立支援の促進
- 3 障がい児者の社会参加促進
- 4 障がい児者施設の充実

5 子ども福祉

- 1 地域ぐるみの子育て支援体制の強化
- 2 子育てを学ぶ場の充実
- 3 ひとり親家庭への支援
- 4 発達支援体制の充実
- 5 乳幼児保育・教育の充実
- 6 児童健全育成の推進



コラム

災害情報スピーカーから聞こえてくる行方不明者の捜索のお願い。皆さんも何回か聞いたことがありますよね。認知症の方など、家族が目を見失った短い間にいなくなってしまった時に、警察からの依頼で流しています。

各務原市では、「かかみがはら安心ねっとわーく」として、市内企業や様々な団体と協定を結び、ひとり暮らしの方の見守りや行方不明者の捜索に協力してもらっています。平成26年9月末現在で、約300の事業所と協定を結んでいます。これらの事業所の方々の協力で「安全・安心な各務原市」が実現しています。

また、それぞれの地域でも様々なボランティア団体の方が活躍しています。主に自治会単位で活動している「近隣ケアグループ」は、高齢者や障がい者など様々な不安や不自由を持ちながら生活している方に対し、「見守り・声かけ」などをするボランティアグループです。

あなたも、できることからボランティア活動に参加し、「安全・安心な各務原市」の一翼を担いませんか。

6

いつまでも 住み続けたい 安全・安心のまち 〈防災・防犯〉



誰

もが住み慣れた地域で暮らし続けるには、安全・安心な住みやすいまちづくりが重要です。

地域の身近な場所で、安全・安心を支える消防団や自主防災組織などの防災ボランティア団体の活動を支援するとともに、災害時の拠点施設となる公共施設の耐震化、市民への一層の防災意識の啓発などにより、災害に強いまちづくりに努めます。

また、市民が主体となった防犯ボランティアや通学路の見守り活動などは、地域における防犯や安全の確保に重要な役割を担っているため、それらの活動に対する支援を強化します。



1

防災体制

- | | |
|------------|--------------|
| 1 防災体制の充実 | 4 防災意識の高揚 |
| 2 耐震化の推進 | 5 治山・治水事業の推進 |
| 3 地域防災力の向上 | |



2

消防・救急

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 消防力の強化 | 3 防火対策の推進 |
| 2 地域消防活動の推進 | 4 救急・救助体制の推進 |

3

防犯・交通安全

- 1 防犯活動の推進
- 2 防犯意識の高揚
- 3 交通安全意識の啓発
- 4 交通安全教育の推進



交通安全運動

4

市民相談

- 1 各種相談窓口体制の充実
- 2 消費者保護の推進
- 3 消費者知識の普及啓発

コラム

「自助・共助・公助」という言葉を知っていますか？

災害による被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助それぞれについて災害対応力を高め、連携することが大切だといわれています。

では、自助・共助・公助とはどんなことでしょうか？

まず「自助」というのは、自分で自分自身や家族の安全を守ることです。次に「共助」とは隣近所や地域でお互いに助け合うことです。最後の「公助」とは市をはじめ消防・警察などの公的機関が行う支援のことです。

災害が発生したときには、「自助」-まず自分自身が無事であること-が最も重要です。そのためには、突然やってくる災害に対して「備え」をしておくことが必要です。日頃から災害を想定し、物や知識の備えをしておくことで、災害による被害を最小限に抑えることができるのです。

家具の転倒防止や備蓄品の準備、避難場所の確認など、災害発生時の行動と備えについてもう一度チェックしてみませんか？



7

便利で快適に 暮らせるまち

〈基盤整備〉



人 口減少、少子高齢化が進む中、時代に対応した便利で快適なまちづくりが重要です。

将来を見据えた都市計画の推進、大地震等の災害に強いまちづくりなど、誰もが暮らしやすいまちを構築します。

また、鉄道を機軸とした公共交通体系の整備に努めるとともに、道路・橋梁、上下水道などの生活基盤の整備・長寿命化を図ります。



1 都市空間

- 1 適正な土地利用の推進
- 2 魅力的な都市空間の形成
- 3 公園・緑地の保全
- 4 岐阜基地周辺環境の整備

2 交通体系

- 1 広域幹線道路の整備
- 2 市内幹線道路・生活道路の整備

3 上下水道・河川

- 1 水道水の安定供給
- 2 公共下水道（汚水）の整備及び維持管理
- 3 公共下水道（雨水）及び河川の整備



水道啓発事業

4 都市基盤の機能強化

- 1 公共施設の長寿命化
- 2 施設の高付加価値化



舗装打換工事

5 公共交通

- 1 公共交通ネットワークの形成
- 2 ふれあいバスの運行



コラム

各務原市は東西に長い——。多くの方に共通するイメージじゃないでしょうか。

実際どうなのでしょう。距離をみますと、端から端まで東西は約15km、南北は約10kmと思ったより肉厚・・・なんです。北部には各務原アルプスが連なり、南部には木曾川が流れ、その間に整備されたまちはやっぱり細長い、といった感じでしょうか。

各務原の主要幹線である国道21号線は東西に延伸し、交通網の大動脈を担っています。また、市内12駅を結ぶ名鉄各務原線、4駅を結ぶJR高山線など、いずれも東西に広く配置されています。そして、真ん中には東西にどどんと航空自衛隊岐阜基地が鎮座。こうしたことから、各務原市は市街地の構成も東西に広がっていることが分かります。

この東西に強いという傾向、言い換えれば、南北にまだまだ利便性が高まる余地がある♪ ということで、これからの都市基盤整備のメインテーマは、ずばり南北軸！この整備を重点的に進めることで、今よりもっと暮らしやすいまちを目指します。

8

賑わいと 創造性を感じる 活力あるまち 〈産業〉



経 済のグローバル化、高度情報化が進む中、地域経済の活性化は、都市の発展や豊かで充実した生活の基盤を築くために重要です。

各務原市を支える産業の持続的発展を促進するために、製造品出荷額等県内1位の各務原市の特性を活かし、市内製造業の競争力強化を図ります。

また、地域の特性を活かした商業・サービス業の振興や、近隣市と連携した広域的な観光振興を図ります。農業については、意欲のある担い手を支援することで、経営の安定性、生産性の向上に努めるとともに、農商工連携や地産地消の拡大による農業振興を図ります。

すべての産業を活性化することで雇用の場の確保を図るとともに、地域資源を活かしたかかみがはらブランドを確立し、活力あるまちづくりに努めます。



1 都市ブランド

- 1 かかみがはらブランドの形成
- 2 かかみがはらブランドの発信

2 工業

- 1 企業誘致と市内企業の活性化
- 2 ものづくりの高度化
- 3 産学官の連携強化

3 商業

- 1 商業・サービス業の振興
- 2 新たな事業や起業への支援

4 観光・交流

- 1 魅力ある観光プランの充実
- 2 観光資源のブランド化
- 3 観光振興に向けた連携の強化
- 4 かかみがはら航空宇宙科学博物館の充実
- 5 都市間交流の推進

5 農業

- 1 農地の保全と活用
- 2 新規就農者の育成
- 3 農産物の生産支援
- 4 農業基盤整備の推進
- 5 地産地消の推進
- 6 農商工連携の促進
- 7 森林の保全と活用

6 雇用

- 1 多様な人材の育成
- 2 次代を担う人材の育成
- 3 就労を支援する環境整備



コラム

各務原市といえば・・・キムチ、にんじんなどの特産品が思い浮かぶのでは？

でも、各務原市の魅力はそれだけじゃないんです。「住みやすさ」や「充実した子育て環境」も魅力の1つ。そんな各務原市の魅力をまとめたものが「かかみがはらブランドビジョン」です。

「かかみがはらブランドビジョン」では「台地で育つ」、「空で育つ」、「自分らしく育つ」の3つのキーワードを基に、各務原市の魅力に磨きをかけます。そして、市外の方には「行ってみたい」、「住んでみたい」、市内の方には「ずっと住み続けていたい」としてもらえるよう、各務原市の魅力を様々な方法で発信します。

平成25年には映画、ドラマ、CMなどの撮影を誘致する「かかみがはらフィルムコミッション」を立ち上げ、延べ3,000人を超える市民スタッフとともに市制50周年記念ドラマを作り上げました。

エキストラ、ロケ地はまだ募集中。興味がある方は「かかみがはらフィルムコミッション」のサイトをチェックしてみてください！

9

持続可能な 自立した 地域経営のまち 〈行財政〉



新

たな行政需要、多様化する住民ニーズに的確に対応するため、簡素で効率的な行政運営が必要です。また、地方分権の進展により、地方自治体には、地域経営に対するより一層の責任と創意工夫が求められています。

多様な職員や組織、税収などの経営資源を効率的に活用するとともに、新たな財源確保を図るなど、一層の行財政改革を行うことにより、時代のニーズに合った柔軟な行政経営と、それを支える強固な財政基盤の確立に努めます。



大型ショッピングセンター内のインフォメーションコーナー

1 行政運営

- 1 人材育成
- 2 組織運営の効率化
- 3 効率的・効果的な行政運営
- 4 個人情報の保護と適正管理
- 5 公共施設の適正化
- 6 ICTを活用した市民サービス

2 財政運営

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 適正な受益者負担と公有財産の管理 | 3 計画的な財政運営 |
| 2 財源確保の推進 | 4 契約事務の公平性の確保 |

3 広域連携

- 1 広域行政の推進と連携の強化
- 2 共同による事務の効率化の推進



コラム

各務原市の財政にどんなイメージを持っていますか？

平成25年度決算では、歳入が467億円、歳出が436億円、貯金にあたる基金の残高は222億円でした。1年で使うお金の半分程度は貯金があります。

では、お金の使い道は？

福祉や医療費の助成に使ったお金が89億円、これまでの借金の返済が45億円、これに国民健康保険や介護保険などへ負担しなければならないお金47億円を加えると181億円。これに加えて、教育や道路・公共施設などの維持・補修にかかるお金が必要でした。

そこそ貯金があり余裕を持って財政運営を行っているイメージですが、例えば、景気の悪化により見込んだほど税金が入らなかった、災害などで急に費用が必要になったなど不測の事態を考え、いくらかは貯金を持っておく必要があります。また、今後も増加が見込まれる福祉や医療給付への対応などを考えると、限られた財源を有効に活用することも求められます。

今後は、人口が減って、税収も減ることが見込まれます。これまで以上に「選択」と「集中」により効果的な行政運営に努める必要があります。

職員が今以上にがんばることは勿論ですが、市民の方々との「対話」から得たアイデアを市政に活かしながら、市民の方と協働した行政運営を行うことが重要になると考えています。

計 画 を 実 現 し よ う !



これからのまちづくりの方向性についてなんとなく分かったような気がするよ。

うんうん! 各務原市では、市民一人ひとりの「幸せ」を高めるために、みんなの意見や提案、アイデアを出発点とするまちづくりを進めているのよ。参加したい! いっしょに取り組みたい! と思うテーマや、わたしならこうやってみるなあ、っていうアイデアは出てきた? わたしはね…



ん? まちづくりって行政がやるんじゃないのか?

違うの! いろんな行政ニーズに効果的に対応するためには、地域の実情を把握している私たち市民といっしょに考えて、取り組むことがとても大切なのよ。



うーん。わたし一人の意見じゃ何も変わらないんじゃないの?

いいえ! 各務原で暮らすみんなの率直な思い、イベントや自治会活動への参加、そうしたちょっとした一歩こそが、まちを変える原動力になるのよ。



じゃあ、わたしのこの…、この熱い思いはどうやって伝えればいいの??

右ページを見て! 市長への直行便「あさけんポスト」の提案書よ。みんなからの提案書をすべて見て、実行する必要があると判断したものは、すぐに対応を検討してくれるのよ。 **送り方は裏表紙へ!**



思い立ったが吉日!

さあ、^{みらい}各務原をいっしょに盛り上げよう!



市長への提案

お名前（必須）			
ご住所	〒 各務原市		
年齢		性別	男・女
お電話			
メールアドレス			
公表の際	名前を出しても良い・名前を出さない		

提出日

年 月 日

各務原市政へのご意見や、ご提案をお聴かせください。回答は全て公表いたします。

各務原市長

件名 _____ について

- ご提案に対する回答は、市のホームページと提案箱がある公共施設に置いてある「市長への提案回答集」でご覧いただけます（提案された方には回答致しません）。
- ご提案いただいてから2週間を目処に回答を公表しますが、確認や調査などによりさらに時間を要する場合がございます。
- お名前を必ずご記入ください。匿名の場合、回答は行いません。
- ご提案の内容について、関係部署から電話・メール等で問合せをさせていただく場合がございます。
- 「特定の個人や団体を誹謗、中傷するもの」、「営利を目的とするもの」、「趣旨が不明確なもの」など、提案の趣旨に合わないものについては回答致しません。



ご提案方法

- 市の公共施設に設置した提案箱への投稿
(設置場所の詳細は市の HP をご確認ください)
- FAX による送信 (058-382-7110)